

育施設に売却または貸与するとしている市の方針に対し、「売却せず、貸与してほしい」との意向を亀山豊文市長に文書で提出した。

「活用の道残し貸与を」

「西中跡地の売却・貸与に関する陳情書」と題した文書では、旧西中を「現在桐生市が抱えるさまざまな課題の解決において活用が必要になる」と位置づけた上で、売却はせず、市有財産として維持する形での貸与を求めている。

理由として、▽県立高校の再編計画がある▽教育文化施設用地として活用できる可能性がある▽居住者の増加に貢献できる可能性がある▽売却と貸与の収益比較▽売却した場合さらに転用・転売される可能性がある▽学校法人への売却は税収

た。立高校の再編計画を挙げ、「計画の結果が出るまで売却しないでほしい」と要望。また、地域住民や子どもたちが利用できる教育文化施設の必要性を訴え、その施設用地としての可能性を指摘。近隣の美術館や公園と相まって「居住者の増加に貢献できる施設ができる」と主張している。また、会独自の試算として、一括売却すると7億〜10億円の売却益が見

予算案など53議案上程

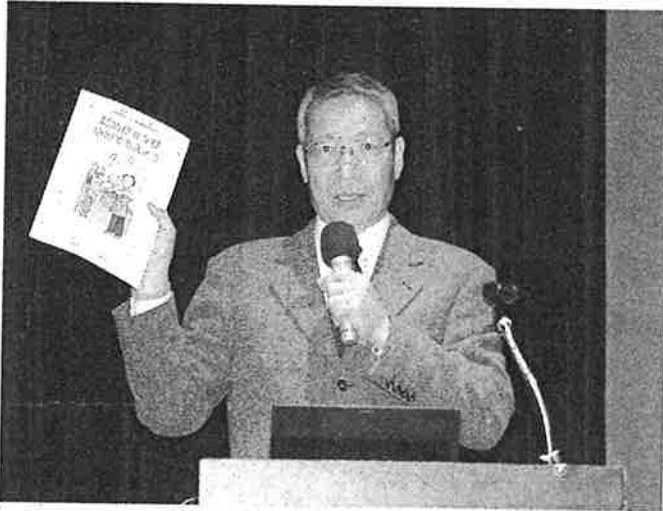
みどり市議会(金子實議長、定数20、18議員)の今年第1回定例会が、21日午前9時半から、同市役所大間々庁舎の議場で開会する。

市の2013年度各会計予算案などを審議する「予算議会」。初日の本会議で、予算案16件と今年度補正予算案13件、一般議案24件の計53議案を上程し、石原条市長が新年度に向けた施政方針演説を行う。会期は3月21日までの29日間。予算案を除く当初提出議案は次の通り。

▽報酬費用弁償支給条例一部改正(鳥獣被害対策実施隊員の報酬設定など)

▽特別会計設置条例一部改正(太陽光発電事業

「妄想は頭から否定せず リフレージングが有効」



認知症サポーター養成講座で講演した山口晴保群大学院教授

認知症サポーター養成講座 群大・山口教授講演

桐生市主催の「認知症サポーター養成講座」が19日、同市中央公民館市民ホールで開かれ、認知症の医療・介護の研究や脳活性化リハビリの普及活動に取り組んでいる群馬大学保健学研究科の山口晴保教授が講演し

た。演題は「認知症を学び地域で支えよう!」。約300人が受講した。山口さんは認知症の特徴を、一般の人にも分かりやすくかみ砕いて表現。その上で、具体的な対応方法などをアドバイスした。

たとえば「認知症の人は何もできない」のではなく、「一度に複数のことができないだけで、一つの作業なら上手にできるものもある」。このため、「何もさせないのではなく、「何か一つの役割を持ってもらうのがいい」。

妄想を持つ人に接する際は、頭から否定したり、「訂正をせずに」「相手が話すことを、繰り返して口に出すリフレーズング」と紹介した。

「財布がなくなった。あなたが盗んだ。警察に連絡して」といわれた場合、「財布がなくなったのね。それは私が盗んだからで、警察を呼んでほしい」というのね」と繰り返して口にする。相手の心は落ち着くという。

認知症予防事業として取り組んでいる高崎市の「ひらめきウォーキング」についても解説。「楽しいことをしながら散歩すると、ドーパミンという物質が脳の中に出てきて、褒められたときやお金をもらったときのような快感があり、脳を活性化させるのに有効なんです」とも話していた。